

【緑地の樹】

緑地桜広場の木たち

平和台住宅の一角、私たちが桜広場と呼んでいる緑地では、高さ15メートルはある、見事な桜が枝を張り巡らせ、毎年の開花期にはその艶やか姿で周囲を圧倒している。

その桜に付き従うかの様に、クロガネモチ、マユミ、モチノキやモッコクが一行儀よく並んでいる。今から約20年前、緑地保全に名乗りを上げた発起人達によって植えられたものだ。

桜の周囲は竹や雑草が生い茂り荒れ放題だったが、発起人達は草を抜き取り、竹を刈り、土を開墾し、樹種を選んで、道路に沿って一本ずつ植えていった。

環境の変化に耐え、これらの木も根付き、春には小さな花を咲かせ、秋には赤や黒い実を生らせ、行きかう人の眼を楽しませてくれる。鳥たちにとっては貴重な食物となってくれる。

残念ながら、マユミは今一つの育ちだが、それでも枯れることは無い。

いずれの木も江戸時代から人気が高く、モッコクは「庭木の王様」とまで称えられ、日本庭園に欠かすことの出来ないものであったようだ。現在でも旧武家屋敷や神社仏閣、公園などで良く見られる。

クロガネモチは11月ともなれば真っ赤な小粒の実をたわわに実らせ、クリスマスリースや正月飾りの彩りに重宝されている。



月日が経ち、発起人であった当初のメンバーも一人、又一人引退されて行き、今は第二世代が後を継いでいる。

桜広場の真ん中には白梅がある。20年前はまだ若く勢いのある木だった。手入れを怠ることは無く、花咲く頃には少し離れた辺りにも梅の香がただよっていた。時は流れ、いつの間にか古木の様な風格を備えるようになった。

世代が替っても樹木の手入れはこれからも変わることなく続く。

(勝田)